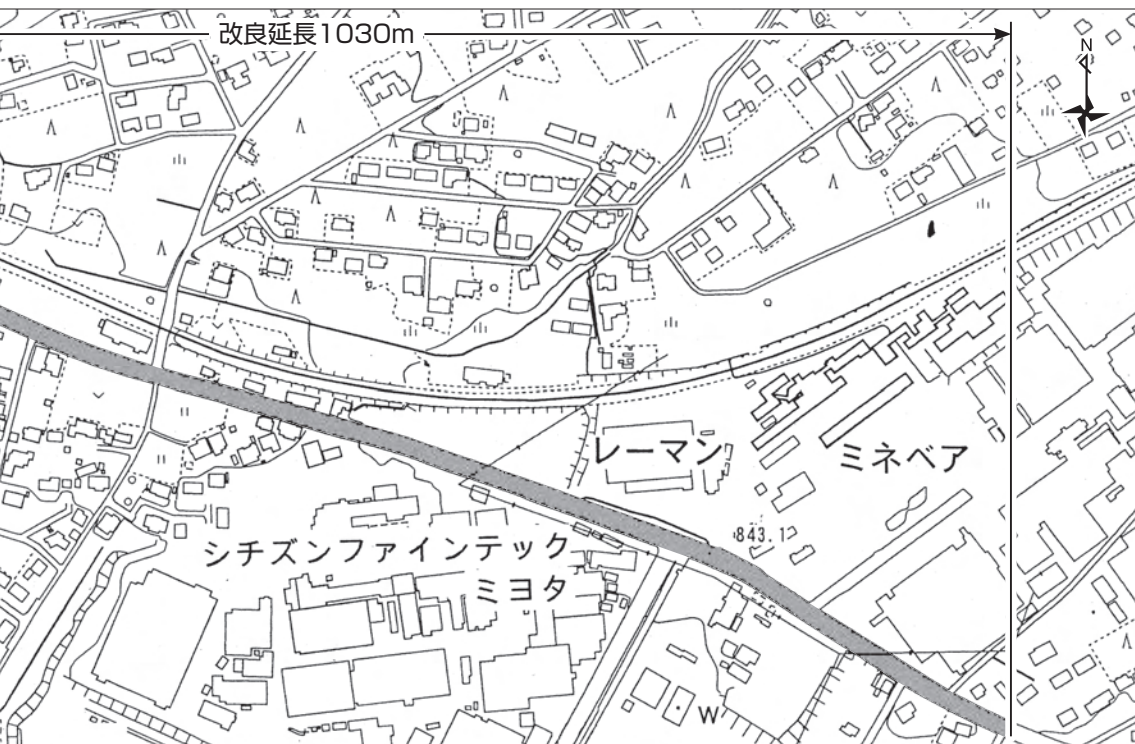


「雪窓向原線」道路整備計画



平成21年度から平成25年度までの期間で行う

「まちづくり交付金事業」で、今回特に重要路線の一つである「雪窓向原線」の道路整備計画について説明します。

雪窓向原線の改良目的

① 舗装復旧

ガス管の占用工事後の復旧にあわせ、亀甲状となっている舗装を打ち替えます。



② 排水路の整備

緩やかな勾配のためか排水の流れが悪く、流下能力に支障が生じており、さらに、コンクリートが劣化して破損しているため、新しく側溝を整備します。

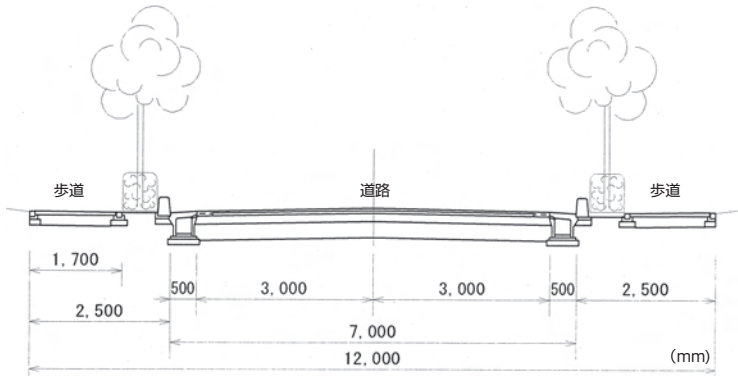


③ 歩道の整備

桜の根上りを解消します。また、歩道として十分な広さを確保し、バリアフリー化による歩道整備をします。



計画標準断面図(案)



④ 街路灯の整備
現在の水銀灯からLED照明に切り替えます。これにより消費電力が少なくなりCO₂排出量が削減できます。また、LED照明は寿命も長いため電球交換のコストが削減できるといった効果もあります。

整備計画区間図



桜の診断は財団法人日本緑化センター 認定樹木医に依頼しました

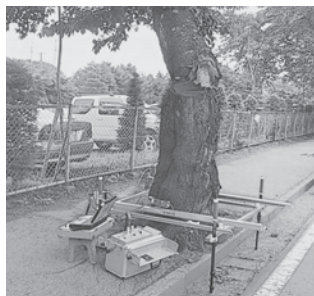
精密検査には非破壊で木の中の状況を判断できるガンマ線樹木腐朽診断器を用いました。この機械は、ガンマ線を活用し、幹を傷めずに樹木の腐朽状況を測定できる最新鋭の診断機器で、写真のように樹幹を挟んで線源と検出器を水平に移動させながら、内部の腐朽状況を調べていきます。

診断結果は…

○並木全体の傾向

- ・幹や根元に内部を腐らせるキノコを多く観察
- ・木部に巣食う虫(コスカシバ)を観察
- ・内部の空洞・軟化は外見より著しく悪い
- ・樹勢(葉・枝)の劣化傾向を観察
- ・多くは舗装を持ち上げ、根上り状態

劣化の傾向が顕在→



雪窓向原線の桜並木について

この桜並木は長年の経過による活力衰退、材質腐朽及び根上りなどがおきており、樹木の診断をしたところ、劣化の傾向が顕著であるという結果が出ました。劣化が著しいため維持コストが増大し、根上りの状況により通行上の危険度が増していくことから、植替えが必要な時期にきてい

ると考えます。また、まちづくり交付金事業を行うにあたり、事前評価を得る目的で行ったアンケート結果でも、「安心して歩ける歩道にしてもらいたい」という意見が数多く寄せられました。これらのことからさらに調査を続け、現状に適さない不健全な桜は伐採し、今後管理に適した樹種に変え、車道や歩道の全体的な改良を行います。

雪窓向原線の経過について

昭和45年

都市計画街路として改良工事に併せて街路樹として「桜」を植樹

平成13年

歩道のゼロすりつけ(バリアフリー化)工事

桜の根上りに対する検討

平成20年

桜の樹木医による診断

シチズンファインテックミヨタ合併記念で桜29本植樹

平成21年

ミネベアにて駐車場整備に併せ桜40本植樹

現在、この計画区間の街路樹は、桜が61本、白樺が20本あります。

今後の事業予定について

今年度は地形・路線測量及び実施設計を行い、詳細な計画を立てる予定です。また、その際に新たな街路樹の樹種選定なども行います。

建設工事は、平成22年度から平成24年度までの3年間で行う予定です。

問い合わせ先

建設課建設係(内線33・38)